

八工大が八工と協定

県内高校初 教育、研究の連携強化

地域の人材育成を促進

八戸

八戸工業大学(長谷川明学長)と八戸工業高校(一戸利則校長)は28日、相互に教育・研究面などでさらに協力関係を強化する高大連携協定を結んだ。両者は今後、高度化する技術に対応できる技術者など、地域内での人材育成を促進させることを目指す。八戸工業高が大学と協定を結ぶのは初めて。

八戸工業大が本県の高校と協定するのは初めて。同大は2016年3月に種市高校(岩手県)と協定を締結済みで、高校との協定は

今回で2例目。

連携協定書は①学生・生徒の教育と研究②教員相互の資質向上―を主な内容とし、今後、さらに協力関係を

(樋渡慎弥)

を強める。1999年から実施している高校生のインターシップや、八工大生の教育実習の受け入れをさらに促進することなどを想定している。

締結式には大学側から長谷川学長ら5人、高校側から一戸校長ら5人が出席。長谷川学長と一戸校長が署名し、協定書を交わした。

長谷川学長は「これからは、地域の実情に合わせて地域が新しい技術を生み出していくことが求められる。高校と連携しながら、高度化する技術に対応できるような人材を育成していきたい」とあいさつ。一戸校長は「県立高校の再編も進んでいる。県南地域の拠点校として期待されている本校の役割を踏まえなが



連携協定を結んだ八戸工業大の長谷川学長(左)と八戸工業高の一戸校長

ら、大学と一体となって次世代の人材を育成していきたい」と連携協定への期待感を示した。

※ 「この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」